

# 在宅で 生きる

vol. **1**

創刊号

2014.7.1.TUE

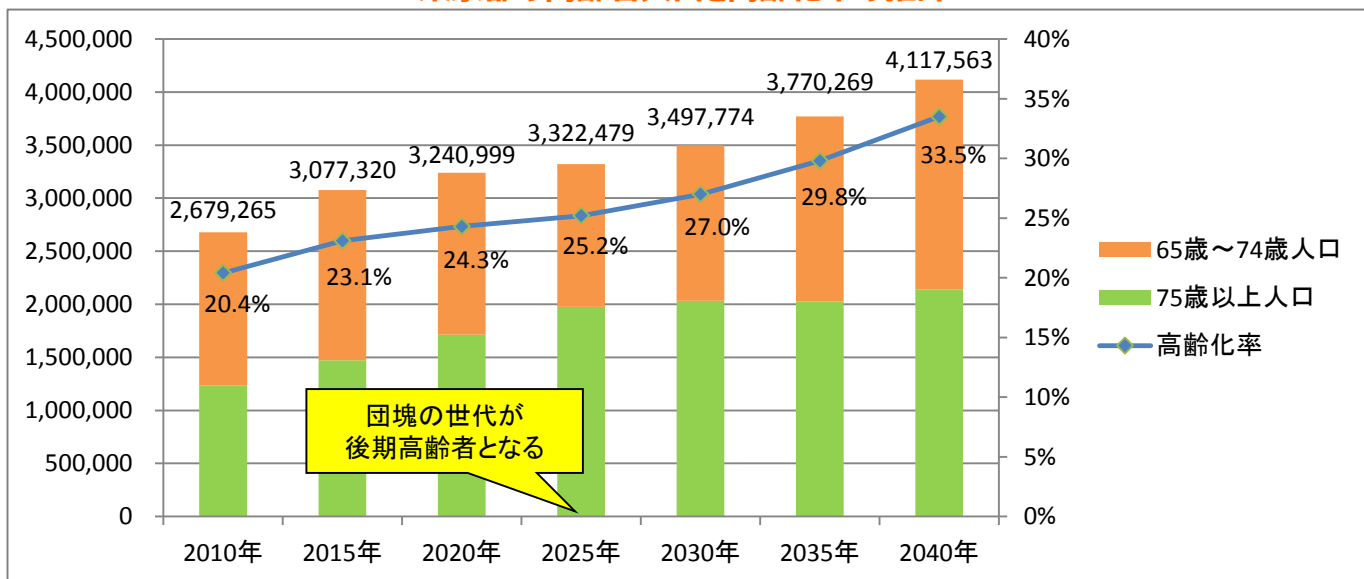
練馬区 健康福祉事業本部  
地域医療担当部地域医療課  
医療連携担当係  
TEL:03-5984-4673

特集 「在宅療養」を知る。

## ◆ 高まる医療福祉ニーズ

団塊世代のすべてが75歳以上の後期高齢者となる2025年、全国で巨大な医療福祉サービスへの需要が押し寄せることが予測されています。この傾向は、特に団塊世代が多い首都圏近郊エリアで顕著に表れると言われていています。下図は、国立社会保障・人口問題研究所が推計した東京都内の高齢者人口と高齢化率の推移を示したデータです。これによると、団塊の世代のすべてが後期高齢者へと移行する2025年の高齢化率は25.2%と、4人に1人が後期高齢者となり、その後も高齢化率は年々増加し続けることが見込まれています。

東京都の高齢者人口と高齢化率の推計

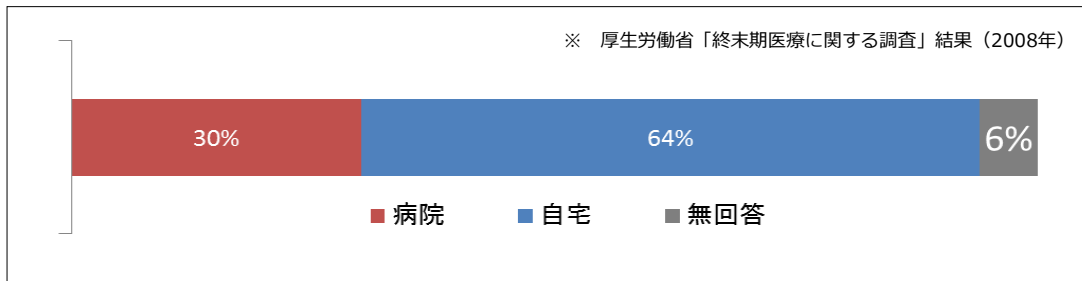


※データ出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

## ◆ 在宅療養という選択肢

このように、医療福祉サービスへの量的ニーズが高まることに加え、その質も多様化してきています。その代表的な例が、“在宅療養”へのニーズです。病気を患い介護が必要になっても、住み慣れた場所で、家族や友人に囲まれて自分らしく暮らしていきたいと望む方が増えているのです。実際に、厚生労働省が実施した調査結果を見てみると、全体の64%の方が“人生の最期は自宅で迎えたい”と考えており、病院を希望した方は、わずか3割に留まっています。このような点から、医療・介護の関係者と練馬区が協力して“在宅で生きる”という区民の皆さまの願いを叶える必要があるのです。

### 最期を迎える理想の場所は？



## ◆ 動き出す練馬区の医療・介護関係者

練馬区においても在宅療養を推進するための協議会を平成25年度に設置しました。それが“練馬区在宅療養推進協議会”です。

本組織のメンバーは学識経験者、練馬区の医師会、歯科医師会、薬剤師会、病院、介護事業者、介護者家族および行政から選出された委員により構成されています。在宅療養を支えるあらゆる関係者が英知を持ち寄ることで、様々な取組や仕組みを生み出していきます。



平成26年4月23日、練馬区役所にて、今年度1回目の練馬区在宅療養推進協議会在宅療養専門部会を開催し、新たな取組について検討を行いました。

在宅療養患者を支える多職種の相互理解や顔の見える関係づくりを目的とする事例検討会の開催(7月から)が決定するなど、具体的な活動も始まっています。

練馬区および在宅療養推進協議会は、区民の皆さまがいつまでも安心して住み慣れた地域で暮らせる仕組みづくりのために、今後も活発な活動を行ってまいります。

### 在宅療養専門部会の様子



今後、練馬区では、在宅療養推進協議会等の検討状況や具体的な取組の状況など、在宅療養に関する情報を定期的に区民の皆さま、医療・介護関係者の皆さまに発信してまいります。